

《原 著》

機能性甲状腺結節に対する外来での放射性ヨード治療

田 尻 淳 一*

要旨〔目的〕機能性甲状腺結節(AFTN)に対する外来放射性ヨード治療(RI治療)の有効性について検討すること。〔方法〕1999年7月から2005年4月までに当院を受診した中毒性腺腫(TA)26例と中毒性多結節性甲状腺腫(TMNG)12例の計38例を対象とした。RI治療は外来で行った。1回投与量は13mCi(481MBq)と固定し、効果不十分なときに3-4ヶ月間隔で追加投与した。観察期間はTAで 31.9 ± 18.7 ヶ月(5~68ヶ月),TMNGで 40.5 ± 18.3 ヶ月(10~63ヶ月)であった。治療効果ありの判定は、血清TSH抑制が消失したときとした。〔結果〕全例で甲状腺機能亢進症は是正され、甲状腺腫や結節の大きさも縮小した。RI治療時のTSH値を抑制状態に保って治療したTA19例中機能低下症になったのは1例であったのに対し、TSHが抑制されていない6例では全例機能低下症となった($p < 0.001$)。〔結論〕AFTNに対するRI治療は有効な治療法である。TAに対するRI治療では治療時のTSH値を抑制状態に保って治療すれば、甲状腺機能低下症の発症を避けることができる。

(核医学 43: 75-83, 2006)